ご挨拶

第 36 回目の日本語教育連絡会議は、2023 年 8 月 24 日から 25 日かけて開催されました。2020 年からは Covid-19 の影響により 2 年続けてオンライン開催、2022 年はブダペストでのハイブリッド開催、そしてようやくリトアニアのカウナスの地で連絡会議を開くことができました。オーストリア、ドイツ、クロアチア、ベルギー、セルビア、ハンガリー、そして日本から 31 名が参加し、24 本の発表がありました。

希望者全員が発表できるようにと、ぎゅうぎゅう詰めのスケジュールを立てながら発表題を眺めていると、毎年のことながら本当に多様なテーマの研究発表や実践報告があるなあとしみじみ思いました。連絡会議当日も、次から次へと全く異なるテーマの話が続き、日本語教育というものの幅の広さ、奥の深さを改めて感じました。また、20 分という限られた貴重な発表の時間のうちの数分を割いて、中野二郎さんがカウナスの杉原記念館と関わりの深い「人道の港　敦賀ムゼウム」の話に触れ、リトアニアとの個人的なつながりをお話ししてくれたことは、とても嬉しい思い出として心に残っています。

開催前から、アドバイスやお手伝いのお申し出もたくさんいただきました。カウナスのおすすめのサウナも聞かれました。懇親会の料理がどれも美味しそうで選べないというメッセージもありました。発表はもちろん、休憩時間や懇親会、ツアーなどで参加者やご家族のみなさんととても楽しい時間をカウナスで過ごすことができ、現地で開催ができ、本当によかったと思いました。

当日は運営スタッフとして、本学アジア研究センターの日本語教員シモナ・クンペが中心となり、同センターのスタッフであるアルヴィーダス・クンピス、学部 4 年のガブリエレ・ラウツキーテ、トマス・タムレヴィチュス、ドーマンタス・ヌガラス、博士 2 年のオウシュラ・ウルバナヴィチューテががんばってくれました。拙い運営でしたが、辛抱強くお付き合いくださってありがとうございました。

最後になりましたが、ご参加くださったすべての皆様に心から感謝を申し上げます。今後も日本語教育連絡会議が日本語教育に携わる人たちの大切な居場所であり続けられるよう願っております。

ヴィータウタス・マグヌス大学
アジア研究センター
高木　伽耶子